

## 第 39 回あいち学童保育研究集会レポート

【クラブ】（風の子クラブ ） 【名前】（ 東 和江 ）【立場】 （指導員）

① 午後に参加した分科会の名称をお書きください。

第（ 13 ）分科会 名称（ 発達について 学んでみませんか？ ）

※午前の全体会のみに参加した場合は、全体会講演の名称をお書きください。

②全体会講演や分科会に参加して、心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

### 全体会

『自分を気にかけてくれる存在がある』という想いは、人が変わるキッカケになる。

私達、指導員がどこまで関われるか、考えさせられるお話でした。日々の保育から、後々の社会生活を過ごす力と繋がるのだ、と改めて思いました。

「買ったらかんなら作ろうや」子どもの発想力と、子どもの意見を受け止めて牽引出来る環境を整える。指導員として大切な姿勢だな、と思う。

「困ってる言動は子どもの sos」子どもの発する言葉には見えてないメッセージがあり、時に大人を試してみたり『助けて…』が隠れていたりする。『良い子』は深い sos を出している時があり、普段の何気ない会話や表情を見逃さず過ごしていきたい。

### 分科会

カンファレンスや研修を重ねていくうちに多々出てくる『発達』。そもそも発達とは…？

基本を学びなおしたくなり、第 13 分科会の「発達について 学びませんか？」を選びました。

『自分らしく生きていくための力』生まれてから死ぬまで発達し、出来ていたことが出来なくなるのも、葛藤することも発達。悩み、つまずき、関わりの難しさ、その背後に発達や心の変化が隠れている。

小学校は 1 年生から 6 年生まであり、高学年には低学年とは違うアプローチが必要となる。立ち止まっている様に見える時も発達しており、変化しているゆえである。という認識があるだけでも声かけひとつ変わってくる。

全体会での講演と重なる部分もあるな、と思いました。見えている部分の奥にあるものに、いかに気付けるか、そして指導員が介入する場面なのか、学童保育という異年齢の集団活動の中で子ども同士の関わりを思うと仲間で支えられる場面なら見守るのか、という見極める力を持ちたいと思いました。失敗してもいいんだ、立ち止まる時も大切なんだ、と思える人になれるように、失敗から何を学んでどう行動するのか考えられる力を持てるように、自分を大切に出来る人に成長出来るように関わっていけたらいいな、と思う時間でした。